



令和3年(2021)3月27日 第40号

高槻・五領の環境と
子どもの未来を守る会 News

記事紹介 ☆ 第5回 NO2測定 健康アンケート併せて実施

☆ 五領受水場入り口水道栓; 災害時活用へ ☆ (投稿) ちび火の無限の可能性

NO₂ 測定を復活 (第5回)

今回は “健康アンケート” もあわせて実施
(大気汚染による呼吸器系健康影響調査に参加)

サンプル管 設置 : 5月20日 18:00
~ 回収 : 5月21日 18:00迄

五領地区は、古より交通の要所としての位置にありました。生駒山脈と北摂丘陵に挟まれた隘路に当たり、最近では、名神と新名神高速道路の合流点、171号線、府道14号線、また、新幹線、東海道線、阪急京都線と交通の要所になっています。このような中では、環境の変化には注意を向けざるをえません。「守る会」では、2018年6月に第1回のNO₂測定を実施しました。その後、半年に1回測定を続け、2019年12月に4回目の測定を実施しました。今回のコロナの影響で、2020年度は休止しており、今回は、第5回目に当たります。

今回は、「健康アンケート」を実施します。ソラダスで、大阪府全域を対象に実施されているもので、調査数が多いと地域ごとのぜん息との関連の確かなデータが得られます。

発行 : 高槻・五領の環境と子どもの未来を守る会

代表 : 上田 博夫

住所 : 〒569-0003 大阪府高槻市上牧町1丁目3-17 上牧公民館内

電話番号 : 090-2283-1619 (村井)

ホームページ : <https://takatsukigoryo-mamorukai.jimdofree.com/>

編集部 : 今回は、小山田先生の講演にと小論文“ちび火”に関するご意見を頂きました。また、新刊は“未来のアートと倫理のために”を紹介しております。次回定例会には、音楽 Live を準備しました。第5回NO₂測定も実施です。

次回「守る会」定例会は、4月24日、第4土曜日

16:00~18:00、上牧公民館(上牧町本澄寺前)で開催します。

連絡は、事務局村井(masa569@tcn.zaq.ne.jp)迄



ソラダス 2021 全府いっせいで NO₂ 測定

大気汚染の指標 NO₂ 濃度を住民自身の手で測り
身近なところの空気の汚れを調べる運動です



● 測定日 2021年

5月20日 (木) 18:00
~ 21日 (金) 18:00 (24時間)

小雨
決行

透明な
プラスチック容器

NO_xをとらえる薬品を
染み込ませたろ紙

青いゴムキャップ



五領受水場入り口部の水道蛇口！

地区自治会等 — 高槻市 と協定へ 災害時給水拠点として活用へ前進！

前号で、五領受水場入り口部に設けられている、水道蛇口 6 栓 に関し、災害時の給水拠点として地元で活用できるように ならないか！と問題提起しました。

その後、3月10日に地元住民3名が市水道部総務企画課に赴き現状状況の説明を受け、また、住民側の希望を申し入れました。その後、市＝地元（自治会他）と調整の結果、この水道栓は、災害時の給水拠点として、地元が運用可能となる事が決定しました。この協定は近日中に締結され、運用の詳細は協定締結時に決定されます。



未来の アートと 倫理のために

対等にアートを作るって
どういうこと？

新刊紹介

長谷川書店でお求めいただけます

“未来のアートと倫理のために”

左右社

表紙には、“実践と理論を通じて、アートにおける倫理と公平な社会の可能性を探る”内容になっていると記されています。著者の一人として、五領アートプロジェクト主宰者内山幸子氏による「水平をともに目指して（メキシコと五領を往来して考えたこと）」が掲載されており、地域でのアート活動が紹介されています。内山氏は、本冊子の“あとがき”も執筆されています。

投稿

「ちび火」の無限の可能性

守る会NEWSで、「ちび火考」を読ませて頂いて「ああ、焚き火、懐かしいなあ。でも焚き火ができなくなってから久しいな」と思いました。この上牧の地に引っ越してきて40年を超えますが、当初は年末になると不要なものを焚き火で燃やしていました。ところが、いつの間にか住宅地で火をつけてはならないとお達しが来てそれ以来焚き火にはほとんど向き合っていません。

2月の例会に参加して「ちび火考」の筆者・小山田徹氏（京都市立芸術大学教授）の講演を聞く機会を得ました。パワーポイントで映像を見ながらのお話です。小山田氏の京都での学生時代の破天荒と言えるような生活・行動から始まって、現在の「ちび火による人々との共有空間の獲得」に到達するまでの氏の半生記は私のような凡人では考えられない波乱万丈にあふれたもので、興趣に富むものでした。常に彼の周りには見知らぬ多くの人たちが集ってくる、そういう空間を次々と新しい発想で、行動し生み出していくその人間性の分厚さに感嘆しました。

そして今、「ちび火」はなぜ必要か？そもそもちび火とは、大きな焚き火ではなく小山田氏が考案した4、50センチ程度の金属の缶でしょうか、そこに自然の木ぎれで火を熾すのです。その小さな火、原始の時から人間が触れてきた火には不思議な力があって、見知らぬ人でも自然とその周りに集まり、何でもない話を語り合い始めるといいます。

現在の疎外感溢れた時代にこのちび火は人と人とを結び付け、争いではなく平和な時を共有するものになるのだろうと聞いていて思いました。自然の偉大さをその小さな火から思い起こすことができるだろうとも・・・。

小山田氏は特にこれからの子どもたちにこそ、このちび火を体験させていきたいと強調されました。確かにバーチャルな世界ばかりに浸っている子ども達に地についた思考・行動が大切です。このちび火にはその可能性を広げていく無限の力があるのではないかと思います。

(T・O)

次回定例会 4月24日(土)

ライブ :

2021 Live in Tashiro